

豚豚に対する飼料用米の給与試験

与田光春・原 祐義(佐賀県畜産試験場)

YODA, M., S. HARA: Feeding Tests of Dent-Rice on Pork Pig

飼料用穀類の自給率向上対策の一環として、飼料用米の豚豚に対する給与試験を実施し、穀類代替の可能性およびその適正配合割合等について検討した。

1. 試験方法

1) 供試飼料は、多収米と目される1982年産韓国系水稲の玄米を2mm以下に粉碎し、豚産肉能力検定飼料中の穀類(マイロ・トウモロコシおよび大麦で66%)と全量(66%区)および半量(33%区)代替させ、TDN, DCPが検定飼料と同等となるように配合したものと検定飼料を用いた。

なお、給与方法については、不断給餌とした。

2) 供試豚は、1982年12月10日生まれのL II種で、1区6頭(♂♀各1頭の3反復)の3区計18頭とした。

3) 試験期間については、体重30kg(組平均)から体重100kg(個体)までとした。

4) 豚舎は、産肉能力検定豚舎とし、敷料は用いなかった。

5) 調査は、発育成績、と体成績および肉質成績について実施した。

2. 結果および考察

1) 発育成績については、第1表に示すとおりである。

第1表 発育成績

項目	区分			
	66%区	33%区	対照区(0%区)	
開始時日齢(日齢)	84.3±2.3	85.0±0.9	84.3±0.5	
終了時日齢(日齢)	165.2±3.8	169.8±8.1	171.4±13.1	
開始時体重(kg)	30.1±4.3	30.3±1.6	30.3±2.2	
終了時体重(kg)	100.5±0.5	100.2±1.3	101.1±1.4	
飼料消費量(kg)	475.1±12.2	457.2±14.7	490.0±19.4	
1日平均増体量(q)	872.3±57.8	833.0±105.9	821.0±103.5	
期別成績	体重			
	30kg~40kg(R)	840.3±108.9	849.2±54.1	826.3±89.8
	40kg~60kg(R)	774.6±160.7	868.2±105.9	843.8±121.4
	60kg~80kg(R)	913.5±50.3	833.3±164.8	788.6±189.3
	80kg~100kg(R)	944.6±65.8	803.8±140.9	813.5±83.0
飼料要求率	3.37±0.07	3.27±0.15	3.45±0.08	
期別成績	体重			
	30kg~40kg	2.76±0.07	2.60±0.14	2.66±0.01
	40kg~60kg	3.39±0.39	2.97±0.08	3.24±0.06
	60kg~80kg	3.32±0.34	3.49±0.37	3.77±0.33
	80kg~100kg	3.83±0.17	3.82±0.16	3.86±0.01

与田・原：飼料米給与(豚)

1日平均増体量について、体重80kgから100kgまでの間の期別成績では、66%区が他の2区よりも約130kg程度増体量が大であり、また全期間での成績においても、飼料用米の混入割合が多い区程増体量が大きい傾向を示したものの有意差は認められなかった。また、飼料要求率等その他の項目についても有意差は認められなかった。

なお、66%区については、肥育の初期から中期にかけて下痢様の軟便をするものがみうけられた。

2) と体および肉質成績については、第2表に示すとおりである。

第2表 と体および肉質成績

項目	区分	66%区	33%区	対照区(0%区)	
		と			
と	肉歩留(%)	67.4±0.7	67.9±1.6	67.8±0.7	
と	背腰長II(cm)	73.0±1.7	74.4±3.2	76.8±2.7	
と	コース断面積(cm)	18.0±2.8	19.6±4.2	17.4±3.1	
と	ハム割合(%)	30.8±0.4	31.0±0.8	31.1±0.8	
と	背脂肪(肩)(cm)	3.0±0.3	3.1±0.5	2.7±0.1	
と	背脂肪厚(平均)(cm)	2.4±0.1	2.5±0.3	2.3±0.2	
肉質	水分(%)	73.3±0.7	73.8±0.5	73.5±0.4	
	粗蛋白質(%)	21.8±0.5	22.1±0.2	22.0±0.5	
	脂肪融点(背)(°C)	33.1±1.1	33.6±2.2	33.5±3.0	
	保水力(加水)(%)	71.8±2.0	72.3±2.6	72.2±5.2	
	伸展率(m/R)	30.8±2.5	29.0±2.2	29.1±5.2	
肉質	硬さ(N/g)	4.03±1.13	3.73±0.83	3.30±0.59	
	脂肪色	L値	63.9±0.9	63.8±0.9	63.8±1.7
		a値	0.9±0.4	1.5±0.8	1.6±0.9
		b値	6.3±0.4	6.2±0.3	5.8±0.3
	肉色	L値	39.9±2.1	39.0±1.0	40.0±3.9
a値		6.5±0.4	7.0±0.7	6.6±0.5	
	b値	5.1±0.5	4.9±0.3	5.1±1.0	

与田・原：飼料米給与(豚)

と体および肉質成績に係るすべての調査項目について、有意差は認められなかった。

なお、背脂肪の厚さ(肩)については、有意の差ではないが、飼料用米混入の2区が若干厚くなっていた。

以上の結果から、飼料用米の玄米を穀類の代替として用いることは、十分に可能であると思われる。

なお、多量に用いる場合は、66%区において肥育初期中に下痢様の軟便をするものがみられたこと、肥育後期での増体量が良かったこと等から、その給与時期についてさらに検討する必要があると思われる。